令和4年度の受賞団体について

「みやぎ食育大賞」 宮城県気仙沼向洋高等学校産業経済科3年学校給食開発班



宮城県気仙沼向洋高等学校産業経済科３年学校給食開発班は，気仙沼市立本吉共同調理場栄養士の「気仙沼の魚を学校給食で味わってほしい」という話を受け，学校給食にサメ肉を活用した献立を考案し，令和３年度から４年度に計１２回にわたり給食を提供した。受配校８校に１２００食が提供され，残食率は他の魚類を用いた主菜に比べ，平均３%ほど下がる内容となった。

また，学生が受配校を訪問し，児童に対し，サメについてプレゼンを行い，サメ肉の栄養価，気仙沼とサメの関係等を紙芝居方式で伝えたことに加え，コロナ感染症が拡大してからは，紙芝居方式の動画を全受配校に配信した。動画は，話す内容やスライドを生徒が作成し，小学生にも伝わりやすい言葉選びや撮影の際の目線など細部にまで気を配り，生徒自らが主体的に行った。

本取組みは，地域で生産される食材をより身近に感じ，地域の自然，食文化に関する理解を深めることができるよう，学生自らのアイディアで学校給食への供給を実現し，さらに，コロナ禍においては，新たに非接触型の食育に取組んでいることから，受賞となった。

「みやぎ食育奨励賞」 白石市立大平小学校



白石市立大平小学校は，地域ボランティア団体と連携し，全校児童が農作物の栽培に携わる体験する活動を通して，児童が郷土愛を深める取組みを継続的に実施している。

また，学校給食センターや企業の外部講師を活用した計画的な食育指導を実施しているほか，保護者と連携した家庭における食育活動を実践しており，地域一体となった食育の推進体制が構築されている。

さらに，児童会に健康委員会を設置し，児童自らが給食の栄養分類表示や給食メニューの全校放送など，自発的な食育活動を実践している。

本取組みは，子ども達自身が，健全な食生活に関する知識，技術を身に付けるとともに，農業体験を通じて，食材や食文化，生産への関心を高め，児童自身や関係者がそれぞれ食育に関する役割を担い，連携・協同していく取組みとなっていることから，受賞となった。

「みやぎ食育奨励賞」 JA いしのまき青年部矢本地区，JA いしのまき女性部矢本地区，JA いしのまき笑菜会矢本地区

JA いしのまき青年部矢本地区，JA いしのまき女性部矢本地区，JA いしのまき笑菜会矢本地区は，東松島市内の小学校とその保護者を対象に，１年をかけて食材の栽培から収穫，調理をじっくり体験できる食農体験の機会を，平成１０年度より継続的に提供してきた。東松島市の教育委員会や市役所と連携し参加者を広く公募しており，第１回の開催から通算２２０世帯，７２２人に体験学習の場を提供している。



子育て世代の参加者には，食農体験を通じ，作る楽しみや農業を身近なものに感じてもらえる機会となっており，野菜への関心，野菜摂取増につながっている。一連の食農体験には，食以外に地元の施設見学を組み込むなど開催内容を工夫することで，地域での認知度も高く多くの応募がある。

本取組みは，地域の産業や食文化への理解を深め，生産者と消費者の信頼関係を構築し，「見て」「触れて」「楽しんで」「調理して」「食べる」といった五感を使って食を実感できる取組みとなっていることから，受賞となった。